Interview

その一歩から プラスの効果が生まれる

熊本県　環境生活部県民生活局
男女参画・協働推進課
主任主事　**松本　和也**さん
Kazuya　Matsumoto

松本主任主事は、２歳と４歳のお子さんを持つお父さん。育児短時間勤務を利用し、子どもの保育園への送り迎えをするなど、共働きの妻とともに積極的に子育てや家事に参加する男性の一人。

ともに住みよい社会へ

男女共同参画社会基本法では、「男女共同参画社会の実現は、21世紀におけるわが国社会を決定する最重要課題」と位置づけており、その課題に取り組むため、県では、男女がともに自立し、支え合う社会の実現を基本目標に「第３次熊本県男女共同参画計画（ハーモニープランくまもと21）」を策定しました。

男女共同参画は、女性のための政策・支援だと思われがちですが、男性にとっても住みよい社会をつくるために重要なものです。

特に今回は、『仕事と生活の調和が図れる環境づくり』を重点目標の一つとして掲げました。男女がともに仕事と子育て・介護などの家庭生活、地域生活、自己啓発、趣味などのバランスを図るなど、自己実現が可能となる仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のとれた環境整備を推進しています。

熊本県は保守的な県だと思われがちですが、平成22年に県民を対象に実施したアンケート調査では、「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を決める考え方（固定的性別役割分担意識）に同感しない人は７割を超えているんです。

一歩踏み出してみて

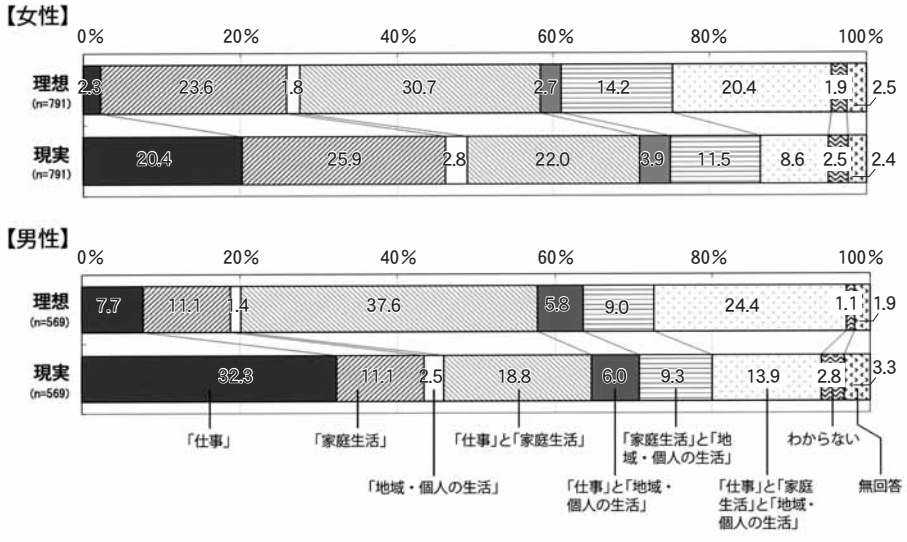
かく言う私も妻の遠方通勤もあり、家事や育児などを率先して行っています。正直、やるまでは面倒くさいだろうなという思いもありました。でも、やってみてわかる喜びや楽しみがたくさんあるんです。

まずは、一歩踏み出してみて。夫婦で役割分担することで、有効な時間ができて、家族関係がよくなり、一人で悩んだりイライラすることも防げます。男だから、女だからという概念ではなく、家族の一員として役割を果たす気持ちが大事ではないでしょうか。

理想は仕事と生活の両立

平成21年12月に３次計画策定を前にして行った男女共同参画に関する意識調査から、理想としては、仕事と家庭生活をともに優先したいなどの「複数の活動を両立させた生活」を送りたい人の割合が高くなっていますが、現実的には、仕事または家庭生活を優先しているなどの「単一の活動を優先した生活」を送っている人の割合が高くなっていることが分かります。

熊本県における仕事と家庭・地域生活の両立（理想と現実）



熊本県男女参画・協働推進課「男女共同参画に関する県民意識調査（H21. 12 実施）」